

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 [公開議題]

議事概要

- 日 時 令和4年12月1日(木) 9:30~10:06
- 場 所 中央合同庁舎第8号館5階共用A会議室
- 出席者 上山議員、梶田議員(W e b)、梶原議員、佐藤議員(W e b)、
篠原議員(W e b)、菅議員、波多野議員、藤井議員(W e b)
(事務局)
森総理補佐官(W e b)、大塚内閣府審議官、松尾事務局長、奈須野統括官
坂本事務局長補、渡邊事務局長補、井上審議官、覺道審議官
次田参事官、赤池参事官
(文部科学省研究振興局 情報担当)
工藤参事官
(科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室)
林室長
(科学技術振興機構)
金子理事
(科学技術振興機構 情報基盤事業部)
中島部長
(オブザーバ)
橋本内閣官房科学技術顧問、(文部科学省)井上諭一総括審議官
- 議題 ・論文のオープンアクセス(プレプリントサーバ)

○ 議事概要

午前 9時30分 開会

○上山議員 皆様、おはようございます。

定刻になりましたので、只今より総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を始めます。

本日は、公開の議題で、論文のオープンアクセスを行います。オープンアクセスについては

これまで有識者議員懇談会で概要の説明や有識者ヒアリングを行い、継続して議論することと
してまいりました。

本日は、これまでの会で議員からも関心の寄せられてまいりましたプレプリントサーバにつ
いて科学技術振興機構、JSTの金子理事と中島部長にお越しをいただきまして、JSTのプ
レプリントサーバについて御発表いただきます。

まずは内閣府から。よろしく申し上げます。

○赤池参事官 統合グループ参事官の赤池です。

資料1です。

今、2ページ、オープンアクセスに関する今後の進め方ですが、有識者そして今日プレプリ
ントということにしまして、後に国際・国内の施策の検討にも移るということで考えておりま
す。

それから、少しページをめくっていただきまして3ページです。

これについては、前回とほぼ一緒なのですが、この間議論のありました真ん中ほどでありま
すが、グローバルな出版社等への交渉力の強化というところを少し加えております。

また、本日は、4ページを御覧いただければと思います。

これは最初の論点でありますGreenOAの推進というところですが、日本は非常にオー
プンサイエンスのプラットフォームというので非常に充実して、積極的に推進しているところ
です。

オープンサイエンスは、オープンアクセスですね、論文の部分とオープン研究データの両面
ございますが、特に左側のオープンアクセスですね、論文の部分については、J-STAGE、
それからJxiv（ジェイカイク）、今日お話ししますプレプリントサーバ、そしてこれはむ
しろ研究データの世界とつなぐものとして、J-STAGE Data といって日本の学会の
電子ジャーナルのプラットフォームと連携しまして、その論文のバックグラウンドとなっ
ているデータを修正する形になっています。

これは、非常に識別子の統一って大事でして、識別子を統一することによって、例えば右側
の研究データのNIIのResearch Data Cloudや国際的な連携などができ
るような仕組みになっております。

ということで、本日は金子理事と中島部長にお越しいただきまして、このプレプリントサー
バについて御説明をしていただくことになっております。

なお、今日夜に国際情報科学技術会議という世界的な委員会がございますが、そこでも日本

のオープンサイエンスのプラットフォームについて、少し御説明をする機会があります。

以上です。

○上山議員 それでは、JSTの金子理事から、よろしくお願いします。

○金子理事 皆さん、おはようございます。JSTの金子と申します。

それでは、JSTがこの3月から立ち上げて運用を始めておりますプレプリントサーバのJ x i v（ジェイカイク）について御紹介させていただきたいと思います。

こちらにお示ししますとおり、J x i v（ジェイカイク）では全分野を対象に、日本語・英語のプレプリントを公開しております。投稿者はr e s e a r c h m a pまたはORCIDのIDを所有する研究者に限ってございます。

ホームページはこのような形になっておりまして、プレプリントの論文を公開するとともに、版管理ですとか、附属のデータの公開が可能となっております。また、検索機能等もついております。

プレプリントの概要についても、詳細については皆さん御存じのことかと思っておりますので、こちらの方は割愛させていただきますが、御存じのとおり、30年ほど前から世界では色々な分野でプレプリントサーバが運用されてございます。

公的支援という観点で見ますと、例えば欧州ではCERNがサーバを立ち上げていたり、中国の国家科学図書館では、もう既に1万7,000報近くのプレプリントが公開されているというデータもございます。

それからロシア、あとは中南米を中心としたS c i E L O、あと、インドネシアといったところに、やはり母国語のプレプリントを支援するという動きがあるというふうに見ております。

一方、学術出版者の方も、例えばE l s e v i e rが社会科学系のSSRNを買収していたり、W i l e y社がA u t h o r e aというプレプリントサービスを買収していたりといったことで、研究ワークフローの上流の方で質の高い論文を獲得しようという動き、囲い込みのような動きも見られているところかと思えます。

一方、日本における背景ですが、J-STAGEのデータを見ますと、まだ国内のジャーナルでは和文誌あるいは和文の論文、英文の論文、両方を載せているようなジャーナル、合わせて8割ほどが日本語の論文をサポートしているということでやはり国内での和文論文の流通、こうした世界においてもプレプリントというものを皆さんに使っていただくというニーズがございます。

あるいは分野的に見ても、人文社会の分野ではまだまだこうしたところに世界のサーバを利

用するといったところの動きが鈍いので、そういったところをサポートという意味もございません。

一方、そういった日本語のサポートという以上に、日本アカデミア全般的にこうした早期公開により、研究成果の早期実用化につなげて、先取権の主張の支援、あるいは国際的なビジビリティの向上といったところもプレプリントは寄与するのではないかというふうに考えてございます。

私どもの方では、プレプリントに投稿していただくとともに、ジャーナルにも同時並行で投稿していただいて、ジャーナルの方で公開されましたらDOIをベースにリンクを貼るといったことで相乗効果を出していくというふうに考えてございます。

現況ですが、大体109報が今8か月経過しまして、公開されてございまして、日本語のものと英語のものが大体半分ずつといった構造になっております。

地球科学・天文学ですとか、あるいは生物学・生命科学といった海外の有力なプレプリントサーバがあるような分野においても、Jxiv（ジェイカイク）を利用していただいているということで、やはり海外のサーバに投稿するのはハードルが少し高いといったような研究者にも気軽に利用していただけるような環境ができてきているのかなというふうに思います。

アクセス数、ダウンロード数もそれほど爆発的に増えているということではないのですが、今後この右肩上がりの傾向が続いていって、投稿数が増加するということを見込んでいます。

かかっている経費ですが、令和3年度、令和4年度合わせまして大体4,000万円程度の経費がかかっているのですが、我々、当初投稿数の見込みが不透明であったということから、スモールスタートで始めさせていただいておりますので、特に最初のサーバの立ち上げではオープンソースを利用したパッケージで安価に済ませるといったことで始めてございます。

今後、投稿数が増えるに従いまして、受理・チェックの体制ですとか、あるいは対応の迅速化、安定化ということが必要かと考えてございます。

また、公開数ですとかアクセス数が増えたときのために、サーバがダウンしたりなどしましても、閲覧が継続できるようなシステム構成も必要かと思っております。

さらに、投稿のしやすさですとか、あるいは投稿したもののチェックも自動化をしまして、JSTの中の作業も効率化したいというふうに考えてございますし、あるいは我々のデータベースとJ-STAGEとのリンクを自動化するとか、そういった機能強化によってオープンサイエンス推進に寄与していきたいと考えてございます。

実際どういうフローでチェックをしているかと申しますと、大体原稿の投稿から48時間以

内に公開することを目指してやっております。

投稿規約では、色々なチェック項目がございまして、これに沿っているかどうかということをチェックしているのですが、特にここの科学的な手法・論理を用いた、科学的な論文であること、とのかなり一般的な規程がございまして、これに適合するかどうかというのは結構悩ましい問題であったりします。

ほかに形式的な要件もあるのですが、そういったチェックを今現在、1名管理者を置きまして、各分野の専門家、これはJSTの中にそれぞれ詳しい者がおりますので、そういった人間でチェックをする。また、それでは少し不十分で分からないということがございましたら、JST外の有識者の方に謝金をお支払いしてチェックしていただくということをやっております。

この8か月の間にでも、例えば数学や理論物理など抽象度の高い分野において、本当に科学的な論文なのかということの判定が難しいような案件がございまして、これは外部の専門家の意見をお伺いして公開したものもございまして、非公開としたものもございまして。

また、いわゆる疑似科学といったものが疑われる案件もございまして、この案件も外部の詳しい専門家の方5名の方にお伺いしましたところ、4名の方は公開すべきでない。1名の方は公開してもよいとおっしゃったのですが、最後は理事長判断として、非公開とした案件もございまして。

こうしたスクリーニング体制は、海外で最も大きなサーバと言われておりますarXivの場合ですと、年間18万件も投稿があるそうなのですが、こうした体制でチェックをしてございまして、南米のSciELO、こちらのプレプリントサーバは大体Jxiv（ジェイカイク）の1年先をいっているかと思いますが、こちらでも既に4名の体制を組んでいると聞いております。

現在、国内の学協会の学会誌で、Jxiv（ジェイカイク）への投稿を推奨しているジャーナルは36誌ありまして、やはり日本の研究者の皆さん、プレプリントに出してしまうと二重投稿になってしまうのではないかと色々不安を感じて出されない方もおられると聞いております。

このように、学会の方でオーソライズ、あるいは規程で定めさせていただくと出しやすくなりますので、今後このような動きが広まっていくことを期待してございまして。

本日は、Jxiv（ジェイカイク）の話題だったのですが、関連してJSTで先ほどもお話にありましたデータリポジトリJ-STAGE Dataというものを運用しており、1枚だ

け紹介させていただきたいと思います。

こちらは、J-STAGEの掲載論文に関連するデータリポジトリとして運用を2020年の3月から始めておりまして、現在18ジャーナル、315件のデータを掲載しています。これとJxiv（ジェイカイク）とで相乗効果を生んで、よりオープンアクセスの環境を、インフラとして整えていくということを考えてございます。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

この問題、少し複雑ですので、これまで何回かにわたりまして、ある種のお勉強会といえますか、そのつもりで色々な方々からお話を聞いてまいりました。

今日は、JSTの一つの事例ですが、これに係りまして御質問等もあると思いますので、議員の先生方がいかがですか。どのような形でも御質問あるいはコメントいただきたいと思いますが。いかがですか。

では、梶原議員から。それから梶田議員ですね。

では、梶原議員、どうぞ。

○梶原議員 ありがとうございます。

お勉強会という側面もあるということなので、素人的な視点で伺いたいのですが、プレプリントサーバは、プレプリントとしてグローバルにオープンにしましょうという位置づけになっているとすると、日本で持つ必要性、必然性というのをどう理解すればいいのでしょうか。今パイロット的に始動されていると理解しましたが、これを使う効果や反応など、今後の見込みや見通しなどをどう考えているか、計画を教えていただければと思いました。

○金子理事 ありがとうございます。

日本が持つ意味の一番大きなところは、やはり先ほど申し上げましたとおり、J-STAGEとリンクさせることによって、こうした早期公開の動きをより研究者の方になじみやすく、使い易い環境を整えて、それを通じて日本の研究者を世界に対してビジブルにしていく。そういったことに寄与できるのではないかとというふうに考えてございます。まだ日本の学協会のジャーナルは国際的に弱い面があるのではないかと。

○橋本内閣官房科学技術顧問 少しいいですが、JSTの人間として。

これは今JSTでやってはいますが、実際には、JSTの仕事の範囲内かどうなのかという問題があると思っています。政府は、何でもJSTに押しつけてきているのではないかと。

今はこうした流れの中で、日本がとにかくやってみないといけないのではないかとということ

で、スモールスタートとして今4,000万円程度で、人を1人つけてやっていますけど、もちろん本格運用になると全然この程度では足りない訳です。

ですから、今、質問を受けましたが、政府として我が国がこの機能を持つべきかどうかというのをこのような場で議論していただいて、その上で持つべきだとなればどこに持たせるべきなのかという議論があって、進めるべき問題だと思っています。

その意味では、今は取りあえず先ほど説明があった内容でJSTでやっていますが、その様子を見ているという状況です。

○上山議員 これ、少しだけいいですかね。

J-STAGEの日本語論文のやつはエビデンスの方でも全部もらって、外国のと見直しをしていますから、日本語の論文は分かるのですが。海外の人がこのプレプリントサーバをどういうふうにするかというのは、お考えになっておられますか。将来的にでも構わないですが。

結局、海外の人たちでも使えるようなサーバにならなければ、余り意味がないですよ。そのリポジトリとしてはその意味がないですよ。それは、何か計画がありますか。もっとお金があればできるということですか。

○橋本内閣官房科学技術顧問 ですから、国の方針を決めて国の方針に従って、我々に要請があれば我々がやるかどうかは判断します。つまり、その要請が我々の仕事の範囲内であって、我々JSTがやらなければいけないということと、それに加えて予算的、人的な裏づけをきちんと与えてくれるのだったら進められるということですよ。

○上山議員 だから、それはこのリポジトリが一体どこにあるべきかというのは、少しよく分からないのですよね。

今、だから各大学のリポジトリもあって、それを全部まとめてという議論でGreenをやっていけばいいというのが、これは僕はそれで本当にワークするかよく分からないなと思っています。

なぜかという、分散化していますから。分散化しているリポジトリをどこかクラウドにまとめ上げて、それで日本のプレプリントサーバだという形になってGreen OAが進むかどうかは少し分からない、正直言うと。

○橋本内閣官房科学技術顧問 そのとおりです。ですから、そうしたところをきちんと議論するのがこの場なのだと思います。

○工藤参事官 すみません、文部科学省です。

○上山議員 どうぞ。

○工藤参事官 一応、各大学のリポジトリに関しては、完全に全てではないのですが、ほぼ J A I R O C l o u d という形で一つにまとまったクラウドになっています。

ただ、飽くまでもこれは G r e e n のリポジトリなので、プレプリントかと言われると、基本的には著者最終稿を納めるものとして構築されていますから、そうした意味だと J S T がやっている J x i v (ジェイカイブ) とは性格を今のところ異にするものです。

○上山議員 だから、この間の大隅先生のお話もありましたが、結局著者全員の同意を取らないと、オープンにできない訳ですよ、それって。だから、どこかがきれいにまとめないと難しいと思うのですよ、この G r e e n に関して言うと。

それから、もう J S T がそのひな形を作ったのだから、この延長線上にそうしたアイディア的な形のプレプリントサーバができるかどうかということ、どこかで判断しながら、できるのだったら J S T、できないのだったらどこかで……

○橋本内閣官房科学技術顧問 何か誤解があるようですが、何か内閣府から命令されたら何でもやる機関じゃありませんので、私たちは。

ですから、我々は今、ある意味で試行的にやっている訳です。そのやっている結果を見てもらって、しっかりと政府で判断をしてもらって、政府はそれを決定したらそれを要請してもらおうということに対して、私たちはやるかやらないかということ判断する。そうしたプロセスです。誤解のないようお願いしたい。

○上山議員 ありがとうございます、どうも。

それでは、梶田議員、どうぞ。

○梶田議員 御説明ありがとうございました。

J x i v (ジェイカイブ) について、本日初めてお聞きしましたが、重要性を感じました。

一つは、ふだん物理の分野なので、意識しておりませんが、やはり日本語ということは重要な視点だと思いました。

それから、先週までの議論とも関連していますが、例えば D O I が付与されるということなので、研究者の意識さえ変えられて、そして例えば通常の論文出版と同様に査読さえできれば、希望する論文投稿者には今までジャーナルに出版していた論文を J x i v (ジェイカイブ) に出版するというのも長期的には魅力的になるように思います。

というのは、この前から議論している高い A P C 費用、それから今回は議論していませんが、国内の学会等のジャーナルによる研究の発信の方法に相当限界がきている場合が多いということなどがあって、J x i v (ジェイカイブ) に出版というスタイルに変えていく可能性がある

のではないかと思った次第です。

もちろん査読となりますと、それは相当な体制を整える必要があり、恐らく学会などの協力が必要で、また、APCも必要になると思いますが、1本100万円ということはないでしょうから、研究者、そして特に小さい学会にとってのメリットは大きいのではないかと勝手な想像をしました。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

担当者の方から何か今の励ましの言葉みたいですが、いかがですか、何かありますか。

○中島部長 JSTです。ありがとうございます。

現状のところ、Jxiv（ジェイカイク）への投稿は、論文誌への投稿が別途行われるということが前提と考えておりますが、昨今、オープン査読等の動きもありまして、プレプリントサーバあるいはオープン査読を行うジャーナルの上で、査読をしないまま外に公開し、そこでパブリックに査読コメントが付与されて議論が行われて論文がインプルーブされていくという動きもありますので、将来的にJxiv（ジェイカイク）も、コメント機能等も今検討しておりますが、そういったコミュニティの議論の場になるということは将来の姿としてあり得るかと考えております。ありがとうございます。

○橋本内閣官房科学技術顧問 申し訳ないですが、コメントさせてください。

担当者は大変真面目ですから、みんなやる気満々です。しかし、組織としてそれをやるかどうかは別の判断であるということは誤解しないでください。担当者の皆さんは与えられた仕事を本当に一生懸命やりますが、組織としてそれで全体ができるのかということについては、また別の判断があります。

また、ユーザーは皆さん欲しいと言います。当たり前です、あった方がいいに決まっているから。ですが、それには実際にお金も当然ですが、人的コストもかなりかかるのです。人的コストも含めた実際のコストというのは有限ですから、その有限の中で選択、順位づけをしないとイケないのです。それは組織として行いますが、その前に政府として指定いただいて、それを投げただけかかないとイケないということを申し上げておきたい。

○松尾事務局長 少しよろしいでしょうか。

○上山議員 どうぞ。

○松尾事務局長 橋本先生のお話は理解できたので、担当に聞くときにも今これJSTでやってもらっていますが、JSTという名前を消して事業としてここで議論していただいて、それ

で現場の声であるとか聞いて、そしてそれがどう広がっていくかということはある、それを組織としてやるかどうかは、理事長関係なく政府として決めて、それをどこにやるかというのを決めていくということで、まずマイクロにJSTがやるということを所与のものとして考えないでここで議論してやるのがいいということです。

○橋本内閣官房科学技術顧問　そうです、そういうことです。

○松尾事務局長　ということで、上山議員が多分事務方に聞いたというのも、JSTの事務方ではなくてJSTと関係ない、今このプレプリントサーバ、J x i v（ジェイカイク）という事業をやっていく人として聞いて、その現場の声を吸い上げて事業としてくみ上げて、それをどこにやるかというのはそれはまた別の問題ということではいいということですか。

○橋本内閣官房科学技術顧問　それで結構です。

○上山議員　別にJSTに何かという議論をしている訳ではなくて、こうしたものが始まったのであれば、その経験値を共有しましょうという話で色々聞いているということですね。

菅議員、どうぞ。

○菅議員　ありがとうございます。

我々サイエンスリサーチをやっている人間にとっては、税金という公共のお金で研究成果を出して、それを公表するというのが前提だと思います。

一方で、そのジャーナルに投稿したときに、インパクトファクターという格付が使われるようになって、それをビジネス化するという動きで、結局プレプリントサーバというのは前者のサイエンスとして向上するのが前提であるという立ち位置に立っての話だと思うのですね。

効果のところ、成果公開の遅れというデメリットが補完されというのは確かにそうなのですが、研究成果の早期実用化につながるというのは少しやはりずれがあって、研究成果はやはりプレプリントではなくて、きちんと特許を出してから実用化に持っていくので、恐らくこの公開の遅れのデメリットというのはもうその時点で既に遅れてしまっているということだと思います。

なので、これは本当にどういう意味があるかということ、長い間その成果の公開がされない、例えば今もNatureで1年かかるのですよね。投稿して発表されるまで1年半とかかかってしまうのを避けるために、こうしたところで公開することによって世間の人たちに知ってもらおうということで、自分たちが最初にこの仕事をやりましたというプライオリティを取るという意味で、実用化には余り関係ないことだと思うのですね。

ですが、私が質問したいことが一つあって、ジャーナルに投稿するとそのライトは、要は権

利はジャーナル側に行ってしまうですね。全ての図も文章も全て、いちいち許可を得ないといけないですね。この場合は、ジャーナルに発表される前にこれを公表する訳ですね。それをすると、そのジャーナルはライトをどのように主張するのですかね。こっちのやつを使って論文を引用しましたとすると、権利を取る必要はないということによろしいのですかね。

そうすると、今度は逆にジャーナル側が、いやそれは我々のところで発表したデータですねというので、やはり権利をきちんと許可得てくださいということになるのではないかと思うのですが、その辺の折り合いはどうつけていくのかというのが少し私はよく分からないので少し教えていただけたらと思います。

○中島部長 御質問ありがとうございます。

著作権の問題は大変難しいので、ケースバイケースのところもあると思うのですが、J x i v（ジェイカイブ）に投稿していただく際には、著者にライセンスは保持されるということで選んでいただき、ライセンスの種類は色々ありますが、著者にライセンスが保持されます。それをジャーナル投稿に支障がないように、安心して投稿いただくために、最後のところで申し上げた論文の投稿規程で明確にプレプリントの投稿を許容しますということが書いてあれば、プレプリントで似たような図等が使われていてもそれは認めると。

ただ、最終的にその引用なり将来にわたって使われていくものについては、研究者の慣習として出版版が使われるということが多いと認識しておりますので、恐らく出版版の方の規程に従って著作権の処理がなされると思っております。

○菅議員 そうですね。少し心配なのは、こうしたことを進めると逆にジャーナル側はもっとチャージを上げてくるということも考えられると思うのですね。そこをどうするかというところがとても難しいところです。

例えば、ジャーナル側としてはプレプリントを認めますと、それが先に投稿されて公表されて、自分たちのところで審査されて、公表する場合は、我々はそれを許すというふうに決めた場合は、もうプレプリントに出しているのだったらさらにチャージを上げますよという行動だって予想できますよね。そこは少し難しいところかなと思うのですが、すみません、ありがとうございます。

○上山議員 では、赤池参事官。

○赤池参事官 おっしゃるとおりで、正にもう今それが進んできているということだと思えます。

もともと著者、ジャーナルを持っていたというのが慣行でしたが、むしろヨーロッパとかア

アメリカ、ヨーロッパのオープンアクセスの運動の中でだんだん取り返してきたと。

ただ、それがゆえにAPCとかオープンにするって、即時オープンにするための価格が上がってきたというところで、今ここまで来ているというところが。林室長、もしあったらこの点、詳しく教えて。

○林室長 Gold OAは結局プレプリントのコストもカバーしはじめています。具体的に申し上げますと、Springer NatureはSpringer Natureのプレプリントサーバを持っていて、投稿されたらそのプレプリントを（出版者が用意したプレプリントサーバに）出してくださいと促します。そうした形でプレプリントと論文出版の総コストでAPCなり購読費でカバーする。それに利益を乗せるという形でもう着々とビジネスを展開しているという状況です。

ついでで少しコメントさせていただきますと、まだ議論されていない一つの論点は、日本が研究助成機関が助成した研究成果のプレプリントをしっかりと日本がコントロールできるかという点です。これは論文が英語だろうが日本語だろうが確保できるようにする必要があります。

既にarXivとかがある物理系の方々はいいいのですが、まだプレプリントサーバは全ての分野で存在している訳ではございませんので、日本語・英語限らずプレプリントサーバが存在していないところで日本が助成した研究成果を確実にプレプリントとして確保して先取権を主張できるようにしておくという意義はあるかと思えます。

その上で、梶田議員と菅議員が査読のことを強調して申し上げられていましたが、今回JSTのスライドの中で、“何か問題があったらJST内部で専門家に聞いている”という図があったかと思えます。そのクオリティコントロールを（内部の専門家ではなく）日本の全ての学協会（会員）に聞けるようにすると、実はジャーナルのデジタルトランスフォーメーションが起きまして、とにかくプレプリントをJxivに出して各学会がそれを査読してあげる形にし、ピアレビューが終わったものがパブリッシュできるという形になるということで、少し出版プロセスの逆転現象が起こり得るという可能性があります。あるいは、見ようによっては、それがもしかするとGreenの行き着く先の一つのシナリオになるかもしれないということをお知らせさせていただきたいと思えます。

○菅議員 何度も申し上げますが、やはり査読が全てなのです、このジャーナルというのは査読をみんなボランティアでやっていて、その状態のところをきっかけにしてやはり頭をぐっと押さえるという方向に学会、日本学術会議も含めたアカデミーオブサイエンスがきっちりと今後議論して決めていく必要が絶対あると思うのです。査読がなければどんなジャーナル

も全部潰れるので。

○林室長 その意味で、この業界は上流工程を押さえたもの勝ちという法則がありますので、実はプレプリントサーバは最初にとにかく原稿を集められるので、そこにうまく査読の機能を付け加えられたところが将来勝つという意味合いで……

○橋本内閣官房科学技術顧問 でも、時間が今48時間でやっている、中でやっているからできているのですよ。査読を入れた途端にもう4か月になるかもしれない。

○林室長 そうですね。話をでかくしてよければ、そこにブレークスルーといいますかイノベーションの種が、ポストピアレビューのフィルタリングシステムのニーズは存在しているので、誰かがそれを開発すると多分後世に名前を残せると、いつも講演ではそうやってアジテーションしております。

○上山議員 波多野議員、どうぞ。

○波多野議員 波多野です。

学協会の活用をこの査読に取り入れたらうまくいくのではないかという点です。

また分野によっては日本語の論文が多いとのこと。自動的に英語に翻訳、英語翻訳システムが今とても進んできていますので、それを英語にして今まで日本語ゆえに世界に発信されることなく埋まっていたもの、重要なデータとなると考えます。以上です。

○上山議員 すみません、藤井議員、手が挙がりましたね。これを最後にします、時間ありませんので。よろしくお願いします。

○藤井議員 ありがとうございます。

もし、アクセス状況について分かれば教えていただきたいのですが、アクセスが国外からか国内からかというのは分かるのでしょうか。それから、J-STAGEへのアクセス数との比較で、今のアクセスダウンロード数が皆さんの感覚的に、かなりリアクションがいいなという感覚なのか、それともそうでもないなという感覚なのかを教えていただければと思います。

○上山議員 これ、最後の答えで。

○中島部長 御質問ありがとうございます。

申し訳ありませんが、アクセス元の詳細について即答しかねます、申し訳ございません。

J-STAGEとの比較ですが、J-STAGEはかなりアクセスが多いサーバになっておりますので、それと比べるとアクセスは多くありませんが、ほかのプレプリントサーバ、既存の海外のやっているプレプリントサーバに比べても、それほどダウンロード数、多少外に出しておいた方がよかったかもしれないが、そんなに悪くないなというコメントも拝見しています

ので、それほど悪くない立ち上がりかというふうに思っております。

以上です。

○藤井議員 ありがとうございます。

○上山議員 ありがとうございました。

少しもう時間が過ぎておりますので、このセクションをこれで閉じたいと思います。

オープンアクセスについては、今後も木曜会合において議論が続きます。

今日はJSTの林さんと金子さん、それから中島さん、どうもありがとうございました。

では、本日の公開議題は以上となります。

午前10時06分 閉会